

ウダヤナ大学への協定留学 月例報告書 (2023年1月分)

留学先大学：ウダヤナ大学人文学部日本文学学科

氏名：森下千裕

現在、大学は学期間の長期休暇中です。後期授業が始まるのは3月からということで、バリ舞踊の練習等の課外活動に専念しています。新学期に関する情報は曖昧な部分も多いため、常にクラスの友人たちと連絡を取り合ったり、大学事務局に直接問い合わせたりすることで、知らなかった！を未然に防ぐように心がけています。

行事に参加する

バリ・ヒンドゥー教の行事は、地域にもよりますが、多くのところでは210日を一年とする暦に沿って行われています。今年年明けすぐに、ガルンガン・クニンガンという日本のお盆のような期間がありました。これも210日毎に一度訪れる行事であり、神々や祖先の霊が地上に降りてくるのを迎える日であるガルンガンと、このガルンガンのちょうど10日後に神々や祖先の霊が天界に戻る日であるクニンガンから成ります。そしてこのガルンガン・クニンガン期間の前後には、さまざまな寺院で祭礼が行われます。

今回、ガルンガンの日の翌日に行われた寺院での祭礼にて、村の若手グループに混ざり奉納群舞を踊ることになりました。バリでは日本のように年末年始をじっくりと味わう習慣がありません。ちょうど年明けに重なったガルンガンのために年末から忙しく準備を始めるバリの人々とともに、年末の雰囲気を楽しむことなく私も舞踊の練習に参加していました。私にとっては少しせわしない年末年始となりました。

ガルンガンの10日後のクニンガンが終わると、暦の関係によりさまざまな寺院での祭礼が多い時期となります。ある日は、朝の8時から夜の10時過ぎまで一日かけて4つもの寺院の祭礼を巡りました。寺院を参拝する際には、たくさんの供物が必要です。またそれは寺院ごとに新しいものを用意する必要があるため、この日は4つの寺院分の供物を両手いっぱいを持って出発しました。前日には、事前準備としてこの供物やお祈りに使う生花の用意のお手伝いしました。

舞踊について

大学の授業がない今、主にバリ舞踊のお稽古に励んでいます。お稽古は、自分の習いたい演目を勉強する他、祭礼での奉納舞踊やイベントでの本番等の予定に向けて決められた演目を練習することがあります。今は、来月に控えたイベントで踊る機会をいたので、その演目を中心に練習しています。



⇐ 地域の高校生、大学生と一緒に、寺院での奉納舞踊に参加しました。



⇐ お祈りに必要な供物の用意
↓ 観光地としても知られるタマン・アユン寺院にも立ち寄りました。

